

田尻ジッタ遺跡発掘調査現地説明会資料

令和4年7月9日

野々市市教育委員会生涯学習課

- 調査地 野々市市田尻町地内
- 調査原因 西部中央土地区画整理事業に伴う調整池、公園、道路整備工事
- 調査主体 野々市市教育委員会
- 調査期間 令和4年4月～8月（予定）
- 調査予定面積 4,844 m² (2,422 m² × 2面)

● 調査の概要

田尻ジッタ遺跡は、西部中央土地区画整理事業に伴って発見された遺跡です。道路などを整備する工事範囲について、令和元年度、令和3年度および今年度に発掘調査を実施しています。

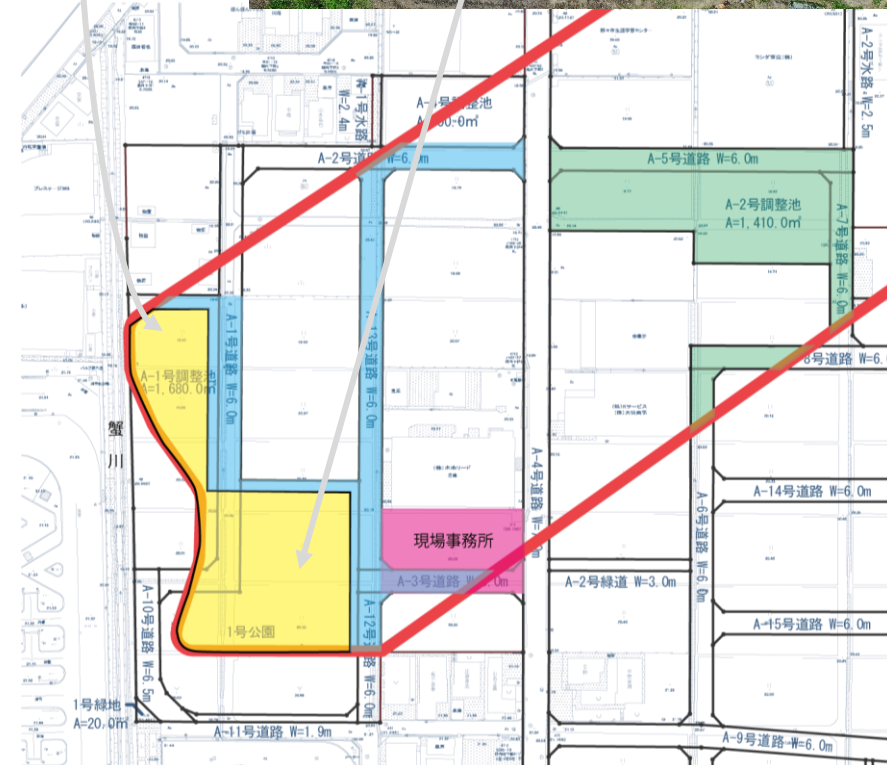
この遺跡では主に中世の後半（室町時代・戦国時代）頃と江戸時代の後半のものがみつかっています。特に昨年度から今年度にかけて実施している調査では中世後半の村の跡が濃厚に残っていることが分かりました。

見つかった遺構（地面に残った痕跡）は小穴（柱穴を含む）が550基以上、^{たてあなじょういこう} 竪穴状遺構及び土坑（大型の穴）が約40基、溝約30条などがあります。柱穴は柱を立てるために掘られた穴で、一辺15cmほどの方形の柱が立っていたと考えられます。複数の柱を組み合わせる掘立柱建物が建てられたと考えられますが、柱の数が非常に多いため何棟の建物が建てていたのか検討中です。竪穴状遺構は一辺2mを超す正方形や長方形の穴で、半地下式の倉庫や作業場などとして使用されたものと考えられています。

溝の中には幅約2.5m、深さ約80cmと規模が大きいものが見つかっています。この溝は南北35m、東西50mの範囲を区画しており、その中に大型の掘立柱建物が建つ宅地が設けられていることが明らかになりました。またこの大溝で囲まれた宅地の周りには小規模な家並みが密集して見つかっています。

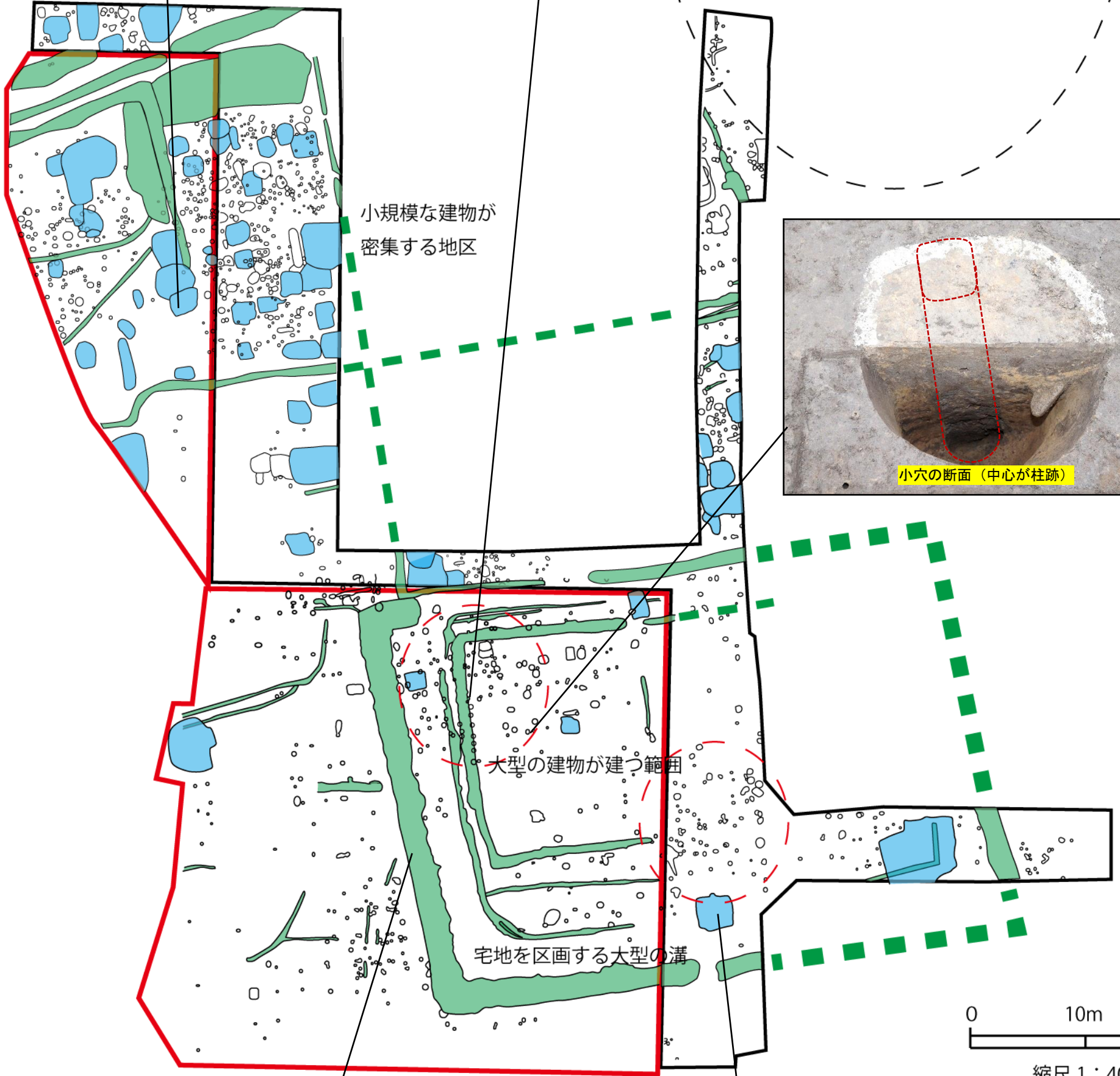
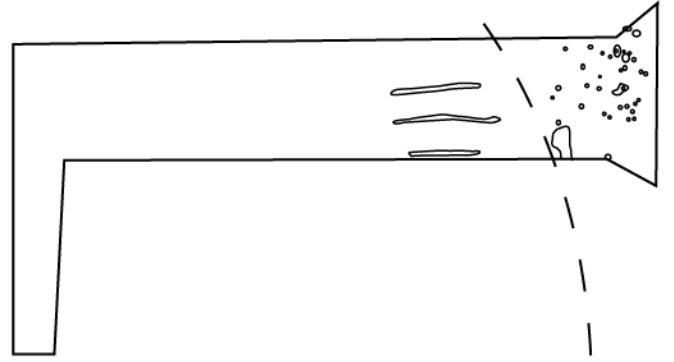
遺物（土器や石器など）は青磁や白磁など中国から輸入した磁器、瀬戸焼・珠洲焼・越前焼などの国内で生産された茶碗や皿、すり鉢などが見つかっています。石製品では砥石や石臼、石鉢などが複数見つかっています。そのほか、鍛冶作業を行ったことを示す^{ふいごはぐち} 鞆羽口（送风管）や鉄滓（鍛冶作業で生じる不純物）などが見つかっています。

過年度の調査を含む田尻ジッタ遺跡の発掘調査によって、中世後半の集落の構造を復元する上で重要な成果を上げることができました。



- ：田尻ジッタ遺跡範囲
- ：令和元年度調査範囲
- ：令和3年度調査範囲
- ：令和4年度調査範囲





- : 縦穴状遺構・土坑
- : 溝
- : 小穴
- : 令和3年度調査範囲
- : 令和4年度調査範囲